# 魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 児山卓史 所属: 神奈川県立平塚養護学校 記録日: 2021 年2月 26 日

キーワード:自分に自信を持つ 生活力向上

### 【対象児の情報】

- ·学年 肢体不自由教育部門高等部3年 男
- ·障害名 脳室周囲白質軟化症
- ・障害と困難の内容
- ○主に経験不足から、身の回りのことを自分一人でできないことが多い。
- ○将来や未来に対して強い不安を感じて活動全般において主体的に取り組めない。

## 【活動目的】

・当初のねらい

中学校支援級2年時より不登校。特別支援学校高等部に入学してからは安定した登校ができるようになったが、自己肯定感の低さから将来に対する大きな不安を抱える。高等部 I ~ 2年次は興味関心を広げる取り組みや友人との関わりの中で精神的な成長が見られた。今年度は3年間のまとめとして『卒業後に役立つ力の育成』、『自己理解を深める』ことを目標とした。

### 今年度の学習目標と取り組みの方針

今年度の学習目標	取り組みの方針
①自分でできることを増やす	A:ICT 活用を日課として学習活動に取り入れることで活用
	力の向上の変化を追う
	B:身支度等を学習活動に取り入れることでスキル向上の
	変化を追う。
②身につけたスキルを外出時に応用する	AppleWatch を活用した買い物、公共交通機関での支払
	いを学習活動として取り入れることで活用力向上の変化を
	追う。
③自分の強みや良さを理解して、前よりも少し自信を	「一日一問お悩み相談」という取り組みを通して、自分にも
持つ	価値があるという気持ちの変化を追う。

- ·実施期間 R2.5/I5 ~ R3.2/4
- ・実施者と対象児の関係

児山卓史(学年リーダー。主に情報の授業で関わる)

橋本利恵子(担任。実際の指導に関わる)

島田優子 (魔法の medichine 研究協力者。③の取り組みのお悩み相談で関わる)

佐々木景都 (魔法の medichine 研究協力者。対象生徒の一つ上の先輩。遠隔でビデオメッセージなどのやりとりで関わる)

### 【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況
  - ·身障手帳 | 種 | 級
  - ·田中ビネーV IQ67(2018年)

## 移動

- ・自走式車いすでの移動。学校以外では支援者に押してもらうことが多い。
- →12月に電動車椅子が完成し、活動が広がった。
- ・歩行器で移動ができる(訓練が主。日常では食堂への移動のみ)。

## 身体の動き

・左利き。粗大運動は不都合なくできる。服のボタンをはめる、紐を結ぶなどの細かい作業は完全にはできない。 Apple Watch を自分で着用できない。

## 理解

- ・言語理解力、読解力は水準以上。抽象化思想力が豊かで、将来の事を考えすぎて不安になってしまう。
- ・紐を結ぶ跡を辿る課題や輪ゴム掛けなど、手順を示してもできない操作的な課題がいくつかある。経験不足もあるが空間認知にやや課題が見られる。

## コミュニケーション

・人見知りがあるが、気持ちが落ち着くと自分から話題を振るなど、コミュニケーション能力は高い。

## ICT 活用状況

- ・自身の iPad、iPhone を持っているが、家での YouTube 視聴以外あまり活用しない。
- ・ゆっくりだが両手を使って(主に人差し指)ローマ字入力ができる。
- ·Numbers や Keynote、iMovie などの作業では指示したことを入力できる。
- ・クラスメイトなどと LINE のやりとりを行っているが、自分から積極的に活用する事はない。

## 卒業後の進路について

・本人は人との関わりを避け、できるだけ家にいる事を望んでいる。保護者の希望としては、いずれはグループホームで自立した生活を送ってほしいと思っている。祖母が訪問介護事業所を開いているので、将来的にはそこで Excel の入力作業を週2回程度させたいという展望もある。

## 強み

- ・指示されたことは確実に取り組む。
- ・日記などの決められたルーティンの課題は1度指示すると毎日欠かさずやり遂げる。
- ・人の話を聞いて、自分の考えをしっかりと伝えることができる。
- ・対応する人に合わせて話題を変えることができる。

教員間では「聞く・話す」力は非常に高いと感じており、折に触れて強みを伝えているが、本人は強みと感じていない。また、そんなことが強みであっても自分の将来に役に立たないという考えを口にする。

#### 当初の関わり方の方針

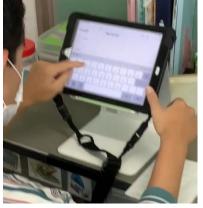
本人への活動の提案では「~やってみない?」という問いかけに「嫌です」という否定で応えることが多いが「~やります」という決定事項で伝えることで「わかりました」と受け入れることができる。実際、体験後は肯定的に捉えることが多かったため、この提案の仕方を関わりの方針とした。

## ・活動の具体的内容

今回の取り組みの ICT 活用を図 I にまとめた。以下取り組みに沿って説明する。

〈図I:取り組みの中での ICT 活用〉





自身のiPad、 iPhoneを活用

## ①自分でできることを増やす

A:ICT 活用を日課として学習活動に取り入れることで活用力の向上の変化を追う

休校期間中~夏季休業中までの取り組み

ビデオ通話での朝の会 5/15~7/3(計31回)10:00~10:15

### 取り組み内容

Google Meet を使用。参加生徒へは毎朝、会議コードとともに 5 分前から入室可能という告知を By Talk for School で行なった。朝の会では毎日約 15 分ほどクラスメイトとの会話やチャットのやりとりで、体調管理や予定の確認等を行なった。





## 対象生徒の変化

開始当初はビデオ通信に抵抗感を見せ、発言も少なかったが、慣れていくことで抵抗感なく参加できるようになった。決められた時間への参加については、毎回開始2分前までに入室することができた。操作に関しては音声やチャットを使いこなして通信ができ、活用の定着が見られた。



## メールの活用方法を身につける 5/15~7/8

## 取り組み内容

自身の iPad で課題①②を臨時休校期間の家庭学習として行い、進捗をメールで報告する取り組みを行なった。

- ①指示した路線を、iPad を使い「乗換 NAVITIME」で調べる
- ②画像をスクリーンショット→自分のスマートフォンに AirDrop
- ③「メール」に画像を添付して送信



メールの活用経験がないため、実施当初は件名がなかったり、本文の内容が伝わり難かったりしたため、まず、件名には「検索課題」、本文には「調べた内容」を書くように指示した。指示後は改善が見られた(図2)。ある時突然2、3日連絡が途絶えたため、確認したところ、「課題が全て終わったため送らなかった」ということだった。課題が終了したら「課題が終わりました」と連絡するように指示した後は改善が見られた(図3)。

〈図2:メール記述内容の変化〉

		時間	検索課題	件名	本文	
5月15日	金					
5月18日	月	6:49	平塚~横浜	児山先生へ	件名がなかったり、本文の	
5月19日	火	7:58	海老名~秋葉原		児山先生へ	
5月20日	水	6:42	茅ヶ崎~恵比寿		<b>児山先生へ</b> 内容が伝わり難かったり	
5月21日	木	6:32	乃木坂~銀四		児山先生へ	
5月22日	金					
5月25日	月	6:48	平塚~東京ビックサイト	課題	JR上野東京ラインに乗った後ゆりかもめに乗り換えてその後は徒歩で行きます	
JR東海道本線に乗って乗り換え無しで茅ヶ崎駅まで行けます		JR東海道本線に乗って乗り換え無しで茅ヶ崎駅まで行けます				
[ 指7	指示後は改善本学本原本駅 箱根登山鉄道に乗って乗り換え無しで行けます。					
が見られた 兵~品川		品川	JR東海道新幹線に乗って乗り換え無しで品川駅まで行けます。			
[ J	元 りんした ~平塚 平塚駅 JR湘南新宿ライン快速に乗って乗り換え無しで平塚駅まで行けます。					
6月1日	月	6:26		舞浜駅	JR東海道新幹線こだま706号に乗った後JR京葉線に乗り換え1回で舞浜駅まで行けます。	

〈図3:メール記述内容の変化〉



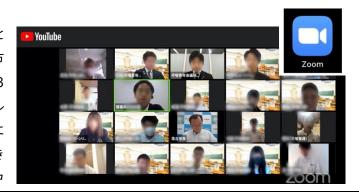
課題が終わったことを 伝達

#### 対象生徒の変化

メールの適切な書き方を身につけ、連絡手段としての活用が定着した。By Talk for School のような SNS よりもメールの活用が自身に適していたため、以後はメールを中心に活用した。

## ひらつかタウンミーティングへの参加 8/9~8/30

8/30 ひらつかタウンミーティング(市内の高校生と「未来の教育のあり方」というテーマで議論し、平塚市長に提言するイベント)への参加に向けて、8月中に3度のZOOM会議を行ったが、いずれも機器のトラブルで参加できなかった。しかしそのトラブル対処のためにメールで粘り強く2時間強のやりとりを行うことができた。当日はいきなりの本番で、YouTubeでのライブ中



継となった。ZOOM でのミュート操作、名前の変更など、前日にメールで伝えたことを本番に自分一人で行い、自己紹介、市長への提言などを落ち着いてしっかりと伝えることができた。遠隔での取り組み、メールの活用など、積み重ねた力がダイレクトに発揮された。

R3.2 月に対面での話し合いとオンラインでの話し合いではどちらが自分にとってやりやすかったかを聞いたところ「オンラインの方が自分に合っていると思う」と答えた。

## 夏季休業以降の取り組み

## 日課としての課題の定着 8/1~2/4

#### 取り組み内容

夏期休業中から毎日の夕食を瞬間日記を使い、写真とテキストで記録した。また、自身の体温、Amazon Echo を活用して「今日は何の日」という調査を Numbers の表に入力する課題を行なった。以後、現在に至るまで欠かさず日課として取り組んでいる(図4、5)。



〈図4:瞬間日記での課題〉

※本人の希望により写真等は実際とは異なります。



〈図5:Numbers での課題〉

※本人の希望により実際の体温とは異なります。

#### 対象生徒の変化

日課として定着が見られた。また、継続することによって活用スキルは確実に高まった。

### YouTube 動画を見ながら学ぶ取り組み

本校では今年度、コロナ禍における学習保証として YouTube (限定公開) のチャンネルを開設した。これを活用し、情報の授業で取り組んだ内容を | 分程度にまとめ、授業対象者に復習用として配信した。対象生徒は Numbers での表の作成が自身ではできなかったが、YouTube の動画を見ながら一人で作成することができた。普段から YouTube を活用していることからすんなり取り組めたようだった。インターネットを活用して自身で学ぶ、という学習スタイルの定着のため継続指導中である。



## ①自分でできることを増やす

B:身支度等を学習活動に取り入れることでスキル向上の変化を追う

#### 取り組み内容

本人は自身の身支度などについて「どうせやってもできない」という思いが強く、いつも「お願いします」と頼ってしまうことが多い。できないことが経験不足の結果であるという状況ではないだろうかと考え、まずは身近なことから日課として定着できることに取り組ませた。

以下、具体的な取り組みを挙げる。

(ア)Apple Watch の装着	通常のストラップでは着脱が難しいため、留め金製のブレスレットに変え
	て取り組ませた。手本を見せて付けやすい方向、位置を本人と確認し、初
	めは支えの補助を行なった。進度を見ながら少しずつ補助を少なくし、結
	果一人で着脱ができるようになった。
(イ)T シャツたたみ	写真での手順書と見本を提示する。何度か一緒に行うことでその後一人
	でたたむことができるようになった。
(ウ)帽子背面のリング留め	留め金の仕組みを説明し、手本を見せる→補助しながら行うという取り組
	みの結果、一人でできるようになった。
(工)洗濯機操作	手順書を見ながら説明→一緒に操作。2回目以降一人でできるようにな
	った。
(オ)電動車椅子でのモップがけ	試行錯誤しながら、右手にモップを持ち、電動車椅子を左手で操作すると
	いう方法を編み出した。
(カ)実習後の帰宅連絡	最初の   週間は電話連絡、次の   週間はメールでの連絡を提案した。
	毎回忘れずに決まった時間に報告をすることができた。





留め金製の AppleWatch ブレスレットの着脱



## 対象生徒の変化

手順表や見本の提示によるやり方や仕組みの理解と時間をかけることで自分でできることが増えた。このことにより、「やってみるとできるんだ」という実感を多少なりとも持つことができたのではないだろうか。進路先でやりたいことに「パソコンと入浴」と自身で決めたのは、できるようになりたいという気持ちの現れかもしれない。

## ②身につけたスキルを外出時に応用する

AppleWatch を活用した買い物、公共交通機関での支払いを学習活動として取り入れることで活用力向上の変化を追う

#### 取り組み内容

コロナ禍による外出の自粛、その影響による電動車椅子作成の遅れにより、計画通りに進まなかったが、近くの公園まで行き、AppleWatch のSuicaでドリンクを購入する取り組みを数回行なった。2月中には家庭で AppleWatch を購入する予定となったので、電動車椅子の操作練習と重ねて取り組む予定である。

## 対象生徒の変化

AppleWatch を使ってのドリンク購入は問題なくできた。



## ③自分の強みや良さを理解して、前よりも少し自信を持つ

「一日一問お悩み相談」という取り組みを通して、自分にも価値があるという気持ちの変化を追う

## 「あなたの悩み、解決します!」~一日一問お悩み相談 6/1~2/4

## 取り組み内容

児童生徒、教員、事務職員、介助員さんなどのお悩みを動画に取り、クラスメイト5人でアドバイスを出し合う。出たアドバイスは Pages でまとめ、翌日プリントアウトして届ける取り組みを行なった。









〈図5:お悩み相談まとめ〉

おなやみ NO.46

『コロナがまだ収まっていないのに息子が東京に遊びに行ってしまう』

②医者1:サックさん 高A1 男・東京に行かなければいい。
②居者2:YUMEさん 高A2 女・出がけても手続いうかいをしっかりさせる。
③店者3:ゆいゆいさん 高A2 女・훌륭できるものを持ってなるべく触らないように必がする。 蘭は触らないようにする。

②居者4:ニノさん 高A3 女・門駅を設定して遅くても11 時までには帰ってくるようにする。

②居者5:ノムさん 高A3 男・今時職単に持ち運べるくらいいさなサイズの消毒液があったりするからそれを一つ買って、持っていってね。と選すといいかもしれません。

## (休校期間中)

悩みの相談に答えるという初めての体験であったと思うが、本人なりの言葉で真剣に答える様子が見られた。オンライン期間中は、相談内容に対して端的にアドバイスを伝えることが多かった(図6)。

6/22 国語の授業の中で「自分の長所は?」という質問に対して「人の悩みに応えられる事」と回答している。

〈図6:お悩み相談の内容とその回答(休校、分散登校期間)〉

Π	日	お悩み	回答
	6月1日	年のせいか目が疲れて困っている。	目のサプリを使うといいんじゃないですか。
	6月2日	ビール6缶入りを一人で買うと重い。どうしたらよいか。	それはもうビールの量を減らすとしかいいようがないんじゃないかな。
	6月3日	腰が痛くて困っている。	湿布をはるのがいいのではないでしょうか。
	6月5日	コロナはいつおわるのか。	収束を待つしかないのではないでしょうか。
	6月8日	体力がない。どうしたらよいか。	トレーニングをしたらよいのではないですか。
	6月9日	そのトレーニングが続かない。どうすればよいか。	難しいトレーニングではなく、簡単なものから始めたらどうですか。
	6月10日	引っ越しをする予定なのですが片付けができない。	できるところから少しずつやるとよいと思います。
	6月11日	子供に出すクイズのネタがない。どうやって調べればよいか。	ネットで検索するのが一番だと思います。
	6月12日	風呂場でクイズを出さなければいけない。どうすればよいか。	あらかじめメモをとっておいて、濡れない工夫をしてください。
	6月15日	息子が北海道へ行ってしまって寂しい。	マメに電話やメールをしてはどうでしょうか。
	6月16日	コロナで運動不足で困っている。	先生方で集まって活動しているテニスなどに参加してはどうでしょう。
- II	6月17日	眠れなくて困っている。	睡眠薬を飲んではどうでしょうか。
	6月18日	薬に頼らない方法を教えてほしい。	ホットミルクを寝る前に飲んでみてはどうでしょう。
	6月19日	マスク焼けで悩んでいる。	ちょっと難しいな。
- II	6月22日	朝早く起きてしまい、その後眠れなくなってしまう。	もう一度布団に入って寝てしまうのはどうでしょうか。
	6月23日	布団に入りっぱなしで眠れない。	考え事をして頭を使えば眠れるのではないか。
	6月24日	身長が低い。どうすればよいか	カルシウムをとればよいのではないでしょうか。
	6月25日	生徒指導中の言葉使いが荒くなってしまう。どうすればいいか。	ちょっと難しい。
	6月26日	(具体的に)こんな言葉使いになってしまう。	言いそうになることをメモにしてみて読み返してみてはどうでしょうか。
- II	6月29日	お酒を飲みすぎてしまう。	取りにくい場所にお酒を置いておいてはどうでしょうか。
	6 H 20 H	仕事でミスをして人間関係で気まずくなっている。	共通の話題を持って歩み寄ってはどうか。
	0 H 30 H	お腹がすぐ痛くなってしまう。	胃腸薬を飲むのはどうでしょうか。
	7月1日	お金がたまらない。	本当に心の底から欲しいもの以外買ってはいけない。
	7月2日	心の底ってどこにあるのでしょうか。	胸が心の底って考えていいのではないでしょうか。
	7月3日	食べ過ぎ飲みすぎてしまう。	飲食物を手元に置かないというのはどうでしょう。

※休校 ※人との関わりについてのコメント

## (通常登校時)

時間の限られたオンラインに比べ発言が大幅に増えている。また、人との関わり方に対する相談に対して、自分の考えを語るようになってきている(図7)。例をあげると「初めて会う人とうまく話せない」という悩みに対して「最初は無理に話をしなくても、一言あいさつするだけでも良くて、少しずつ慣れていけばいいと思う」など。1~2年時は「生きていても意味がない」「死にたいという気持ちは自由」というネガティブな発言が多かったが、この取り組みでは、相談者が前向きになるためにどうすれば良いのかを真剣に考えて発言するようになってきている。

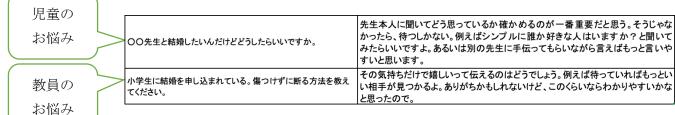
〈図7:お悩み相談の内容とその回答(通常登校)〉

息子が二日酔いで困っている。	とりあえず寝ればなんとかなるのではないでしょうか。
息子が返事をしてくれない。	しばらくほうっておいた方がいいと思います。
奥さんと共通の話題がない。	好きな色とかそういうごく小さいことでも、一緒に料理を作って会話をしてみるとか、話し合い の時間を少しでも作ってみるのはどうでしょう。
苦手な人とうまく付き合うために深く広い心を持つためにはどうした ら良いか。	確かに難しい質問なんですけど、苦手な人っていうのがどういう理由があって苦手なのかちょっとわからないけど、ひょっとしたら自分と似たような好きなものがあったりするかもしれないから、昨日〇〇先生の時みたいにちょっとたわいもない話をしてみるとその人に対する見方が変わるかもしれません。
寝付きが悪い。	低血糖の時に走るのはやめたほうが良い。体調が悪い時は走らないほうが良い。そしてよ 〈寝ることです。
きれいになりたい。	顔パックとか。そんなんじゃだめかな。洗顔が重要だと思います。
話している相手を笑顔にするにはどうしたらよいか。	会話にジョークを織り交ぜる。たとえば児山先生や西澤先生や肥沼先生のように。そうすれば相手も自然と笑顔になるのではないでしょうか。
人に対して怒りっぽくなってしまう。どうしたら穏やかに接すること ができるか。	コーヒーを飲むとかお茶でも飲んで頭も気持ちも落ち着かせる。
彼女ができなくて困っている。	外に出て行動するのは重要ですが、まず第一歩として友達に相談してみるのがいいと思い ます。
身の回りの物をすぐなくしてしまう。	もしなくしてもパニックにならずに落ち着いて周りを探すと近くにあるかもしれませんよ。
日曜日の夕方になると「日曜日が終わってしまう」と悲しい気持ちになってしまう。	来週末に何をするのか考えて、楽しい気持ちになってみてはどうでしょう。
給食が足りないので、おやつを食べすぎて太ってしまう。	お菓子を手の届かないところに置いておく。お菓子の代わりにフルーツを食べるというのは どうでしょう。
父親が夕飯の後片付けをしない。	母に代わりに「片付けて」と言ってもらう。
アップルウォッチか自転車どっちを買ったらよいか。	細かく時間などを色々チェックするのであればアップルウォッチがいいし、スムーズに学校 に行きたいと思うのなら自転車がいい。矢田先生は今自転車をもっているならアップル ウォッチがいいと思います。
コロナでアキバに行けない。このもやもや感をどうすればいいか。	メイドカフェの動画を見て気分に浸ってみるのはどうか?前に買ったグッズで遊ぶのはどう でしょうか?あるいはフィギュアとか。
梅雨なので走れない。どうしたらよいか。。	今の梅雨の時期は雨がたくさん降った後に一時的に晴れ間ができるから、その晴れ間を見 つけてちょこっと走るのが良いと思います。
職員室の机の片付けが終わらない。	簡単にしまえるようなものから先にやって、どうしても時間のかかりそうなものは後に回して 他の先生に手伝ってもらえばスムーズに進むのではないでしょうか。
	息子が返事をしてくれない。 奥さんと共通の話題がない。  苦手な人とうまく付き合うために深く広い心を持つためにはどうしたら良いか。 寝付きが悪い。 きれいになりたい。 話している相手を笑顔にするにはどうしたらよいか。 人に対して怒りっぽくなってしまう。どうしたら穏やかに接することができるか。 彼女ができなくて困っている。 身の回りの物をすぐなくしてしまう。 日曜日の夕方になると「日曜日が終わってしまう」と悲しい気持ちになってしまう。 給食が足りないので、おやつを食べすぎて太ってしまう。 父親が夕飯の後片付けをしない。 アップルウォッチか自転車どっちを買ったらよいか。 コロナでアキバに行けない。このもやもや感をどうすればいいか。 梅雨なので走れない。どうしたらよいか。。

発言自体が増え、り間がある相談にない。 対する相談にな発言のではない。 にないる この取り組みは9月以降、教員以外のお悩み相談という形に発展し、自分たちでお悩みを動画で撮影しに行ったり、「お悩みありませんか?」という動画を作成して学校内のお悩みを集めたりした。また、教員の家族のお悩みや他校の不登校生徒のお悩みなど、学校という枠を超えたコロナ禍でできる交流活動となった。

校内の児童生徒(図8)や実習中のクラスメイトのお悩み相談(図9)では、それぞれの立場を考え真剣に回答する様子が伺える。

〈図8:校内の児童生徒、教員それぞれの立場を考えて回答〉



〈図9:実習中のクラスメイトへのアドバイス〉

実習先の冷蔵庫と外との温度差が辛いです。

これまでとはまた全然違ったタイプの悩みだし、ここでいい加減なことをいうと後から全然役に立たなかったじゃないかって言われると思うと、だからこれまで以上に真剣に考えないと。二人が言うように厚着をして、その上で首筋が冷えると一気に体温が変わってしまうからマフラーをつけるといいかもしれない。

また、自分自身の悩みにクラスメイトからアドバイスをもらうということもあった。

家で買っている犬が最近よく吠えるようになってしまい少し困っています

回答1:犬が泣き止まなかったら諦めましょう。

回答2:好きなおやつを与える・夜に泣くのであれば昼間に遊んで疲れさせる。

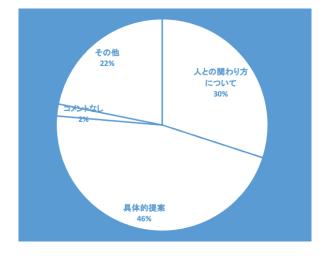
回答3:半分諦めて、あと半分はスキンシップ をする

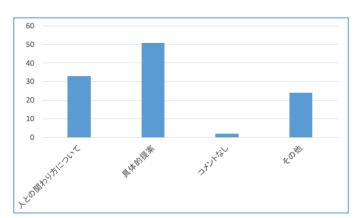
回答4:遊んであげる

このお悩み相談はR3.2/4の時点まで I23 回実施し、その内対象生徒は IIO 回参加した。回答内容を細かく見てみると、人との関わり方に関する回答が 33 件、「腰が痛くて困る」などの質問に対して「湿布を貼るのがいいでしょう」などの具体的な提案が 5I 件、難しくて回答できないことは2回しかなかった(図 IO、II)。総合的に見ると「人との関わり方について」の回答が全体の 30%を占めた。

〈図 10:お悩み相談の項目別回答比率〉







この取り組みについての本人の感想を R3.2/9 に聞き取ったところ、「その場ですぐに答えるのは難しかった」と語ったが、実際には毎回 30 秒~2 分半程度の答えをその場で返している。担任は「頭の回転がとても速くなった」とコメントしており、質問に対する対応速度は担任が体感できるほどだった。この件に関して「それはなかなかできることではない」、「110 人の悩みの相談にのれたね」と伝えた時はいつもより少しうれしそうな表情であった。

卒業後の進路選択の取り組み

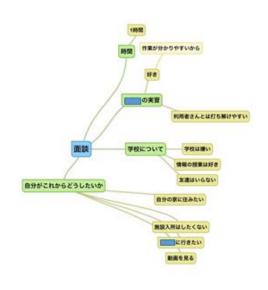
9月に入り、コロナ禍でなかなか進まなかった進路先を決めるための実習が突然入ることがあり、その都度不安な気持ちを抱えている様子が見られた。不安を解消するために、担任が行った「保護者や教員主導ではなく、自分自身で進路を決める」という対応が機器活用以上にとても重要なことであった。以下に9月からの進路選択に関わるやりとりと自己決定の過程を記す。

	対象生徒の様子	手立て・対応		
9月	次週に泊まり(4泊5日)の職業訓練を控え不安を			
	抱えた様子だった。母からの報告では朝5:30 に台			
	所で刃物を持っていたとのこと。			
		①昨年度経験した生徒から体験談を聞くなどの		
		時間をとる。		
		②進路担当との話し合いの時間を作る。		
		③本人と担任とで話をする		
	母と担任が玄関で話をしているのを聞いて今年は絶			
	対に行かなければならないと少し不安だったが、日			
	にちが近づくにつれ不安でいっぱいになった。できな			
	いことがたくさんあって不安。大人の視点では当たり	+ 5 6 m		
	前のことでも自分は必死にやって少しのことができ			
	るくらいだ。できないことがあるから行かされるかと			
	思った。	→ 出来ないから行くのではない。どういう取り組み		
		をしたらできるようになるか、出来ることをより		
		生かすやり方を見てもらう。		
		・あなただけが行くのではなく、先輩、同級生、後		
		<b>輩も経験すること。</b>		
		・これから事前に本人に何でも説明や相談をした		
		ほうが良いか?それともあまり知らされず行動		
	今回事前に説明してもらって良かった。これからもそ したほうが良いか?			
	うしてほしい。			
	THINK FILLS IN THE COLUMN TO T			
	職業訓練後、「自分から決			
	ことへの挑戦が必要、と	ラ俊の目標を掲ける。 		
12月	進路面談 通所の見学について	自分の目で見て確かめることが大切だと伝え		
	知らない所に行くことにかなり抵抗感がある。	続けた。		
	見学を決断			
	職業訓練校の利用について	どの程度利用したいのか、実際に通って何を		
	母の思いもわかっているので行かなくてはいけない	したいのかを提案するように促す。		
	と思っている。			

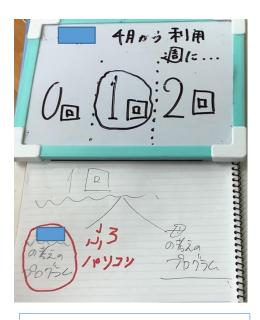
	利用の意思を告げ、「パソコンと入浴をがんばりた	
	い」やりたいことを具体的に口にする。	
1月	コロナの影響で希望の進路先が週2日しか利用で	
	きないと告げられる。	他の場所の実習について、あなたの人柄だから
		声がかかった。みんなあなたのサポーターだよ、と
		告げる。
	想定外に早く	
	実習に行くことを決断	
	実習中も笑顔が見られ、普段と変わらず参加でき	
	た。母は「とてもたくましくなったと感じる。進路先は	
	本人の決断に任せる」	
	実習を終えて、「色々な人がたくさんいる	るんだと思った」「そのうち慣れると思
	う」「プログラムはパソコンと入浴」と、『	自分の言葉でしっかりと意思を伝えた。

このエピソードから「本人の意思を尊重しないで取り組みを進めていたこと」を振り返って反省させられた。まず本人が見通しを持てる充分な説明をし、納得して自己決定する場面を設定していくことが最も重要だったと振り返る。

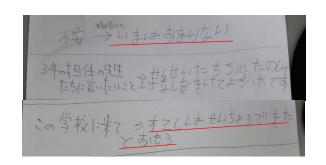
また、この取り組みでは自身の思考を整理するためにマインドマップアプリ「Simple Mind」で教員が考えを入力して整理したり、ホワイトボードに本人の決断を書きだしたりすることで効果的に話を進めることができた。この時は「学校はきらい」「友達はいらない」ということを記しているが、自分がこれからどうしたいのか、という漠然とした思いを視覚化することによって、次に必要なことは何かという一歩進んだ話をするきっかけとなった。そこから出てきたものを絞って選択肢として提示することにで、自身の決断として落とし込んでいくことができるようだった。



シンプルマインドでの進路先イメージ



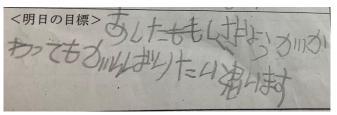
ホワイトボードやノートで自身の 意志決定を行った 右図はこの取り組み後、担任との話し合い で自身で書き出した言葉である。以前に比べて不 安が少なくなったこと、少しは成長できた実感が 持てたことなどを自分の言葉で書き出した。最後 に自分の言葉で「やったことで身になったことが うれしい。進路を決めることができたから、今が 一番不安が少なくなった」と語った。



## Pages で実習先へのお礼状を書く

実習先へのお礼状を手書きで行うか、入力するかを本人に選択させると「入力でやりたいです」と 自身で決断し、作成することができた。このような些細なことでも自分自身で決めて行うことに意味 があると感じたエピソードである。

実習日誌やお礼状など、特別支援学校では何気なく手書きをさせてしまう現状がある。障害特性からくる困難さを顧みず、書くことに拘って日々取り組ませてしまい、その結果自己肯定感の低下につながる状況を作ってしまっていないだろうか。下図 IO を見ると明らかなように、書くことが難しくても入力では立派な文章を作成できるのである。場面に応じて本人が得意な方法を選択できる環境を整えることでできることは広がっていくと実感した。



〈図 10:手書きの文章と入力した文章の比較〉



### 対象生徒の変化

- ・自分の良さや成長を実感できるようになった。
- ・自己決定することで不安を少しずつ解消できるようになった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

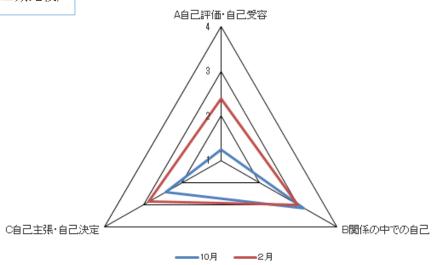
- ・主観的気づき
- ○どの取り組みも日課として取り組ませることでスキルの向上と人に役立つという実感につながった。その結果自己肯 定感が高まったのではないか。
- ○自身のことは包み隠さず伝え、納得した上で自己決定させることで不安が少しずつ解消されたのではないか。
- ・エビデンス(具体的数値など)

今回の取り組みによって自己肯定感の上昇が見られたかの変化を図るために自尊感情測定尺度(東京都版)を 10月と2月の2回に行なった(図 II)。

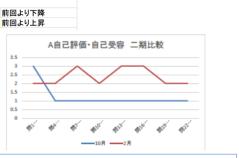
Ⅰ回目に比べ、2回目はA自己評価・自己受容が伸びていることが顕著に伺える(図 12)。ほぼすべての項目で

気持ちの向上が見られた。また C 自己主張・自己決定では「自分の長所も短所もよく分かっている」「自分の中に は様々な可能性がある」という項目で向上が見られた(図 13)。



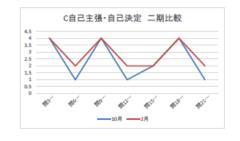






〈図 12:A 自己評価・自己受容二期比較〉





〈図 13: C 自己主張・自己決定二期比較〉

## ・エピソード

R3.2月に今回の取り組みの振り返りを行なった際、対象生徒から出た言葉は「学校行けてよかった」「今は以前に 比べて不安は減っている」ということを笑顔で語ってくれた。最後に後輩へのアドバイスが何かないか尋ねたところ、 「不安なことはあると思うが、まず自分の目で確かめることで不安が少しは解消されると思う」とお悩み相談の締めくく りとなるような素敵な言葉を後輩に残してくれた。今回の取り組みが少しでも対象生徒の今後の人生に影響を与えら れたのだとしたら幸いである。